

電子納品に関する取扱い

（目的）

第１条 吹田市が実施する「佐井寺西土地区画整理事業に係る支障物件調査業務（再算定（その３））（以下、「本業務」という。）」に定める成果品を電子的手段による提出する際の取扱いを定めるものとする。

（フォルダ構成）

第２条 電子的手段により引渡される成果品については、別図１に示すフォルダ構成とする。

２ 成果品に作成するフォルダの内容は以下のとおりとする。

ファイル名	内容
REPORT	仕様書に規定する成果品のうち、図面を除いた資料で構成される電子データファイルとする。
DRAWING	図で構成される電子データとする。
PHOTO	写真

（１）各フォルダにおいてサブフォルダ「ORG」を作成し、ファイル作成したソフトウェア固有の形式で保存する。

（ファイル形式）

第３条 成果品のファイル形式は以下のとおりとする。

ファイル名	形式
REPORT	PDF※１
DRAWING	SXF（P21）※２ または、PDF
PHOTO	JPEG

※１ PDF（Portable Document Format）

PDF は、プラットフォームに依存しないファイル形式で、文書を作成した環境と別環境（異なる機種、OS）との間における文書交換を可能にする。

※２ SXF（Scadec data eXchange Format）

異なる CAD ソフト間での交換ができる共通ルール（中間ファイルフォーマット：交換標準）である。「CAD データ交換標準開発コンソーシアム」において開発された。この交換標準はコンソーシアムの英語名称である SCADEC(Standard for the CAD data Exchange Format in the Japanese Construction field)にちなみ、SXF 標準と呼ばれている。SXF のファイル形式は、国際規格である

STEP/AP202 に準拠し、電子納品で採用されている、拡張子「.P2I」の STEP ファイル(P2I ファイルと呼ぶ。)と、国内でしか利用できないファイル形式である、拡張子「.SFC」の SFC ファイル (Scadec Feature Comment file の略、SFC ファイルと呼ぶ。)がある。

P2I ファイルは、国際規格である ISO10303/202 に則ったファイル形式であり、自由なデータ交換が可能となるように、描画要素に特化したフィーチャから構成されるデータ構造をもっている。本要領では、建築物のライフサイクルを考慮し、納品されたデータが長期的に閲覧・編集できるよう永続性を確保すること、また、国外企業の参入を妨げないことが必須であるため、CAD データファイルのフォーマットに SXF (P2I) 形式を採用した。

- 2 オリジナルファイルに保存するファイル形式については、ファイル作成したソフトウェア固有の形式とするが、可能な限り一般的なソフトウェアを利用するよう努める。

(ファイル作成)

第3条 ファイルの作成は、以下の条件で作成すること。

- (1) 用紙サイズは、A4 縦を基本とする。
- (2) 印刷を前提とした解像度、圧縮の設定を行う。
- (3) 不要なフォントの埋め込みは行わない。また、特殊なフォントは用いない。
- (4) PDF 形式の目次である「しおり (ブックマーク)」を報告書の目次と同じ章、節、項(見出しレベル 1~3)を基本として作成する。また、当該ファイル以外の別ファイルへのリンクとなるしおりに関しては、大項目 (章)に関してのみ作成する。
- (5) パスワード、印刷・変更・再利用の許可等のセキュリティに関する設定は行わない。

(図面ファイル)

第4条 図面ファイルの作成にあたっては、図面の大きさを A3 とし、これにしがたい場合は調査職員と協議のもと、A 列のサイズから選択する。

(ファイルの命名規則)

第5条 ファイルの命名方法は以下のとおりとする。

- (1) ファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。
- (2) ファイル名 8 文字以内、拡張子は 3 文字以内とする。ただし、「ORG」ファイルは、作成したソフトウェア固有の形式とする。

(成果品)

第6条 電子的手段により引渡される成果品は、次の条件を満たさなければならない。

- (1) 情報の真正性が確保されていること。
- (2) 情報の見読性が確保されていること。
- (3) 情報の保存性が確保されていること。

2 成果品は、前項の条件を満たすものとして、CD-R または、DVD-R による納品を原則とする。

- (1) CD-R の論理フォーマットは、Joliet または、UDF (UDF Bridge) とし、Joliet を原則とする。
- (2) DVD-R にデータを記録する (パソコンを使って記録する) 際のファイルシステムの論理フォーマットは、UDF (UDF Bridge) とする。
- (3) データが大容量になる場合には、特定のシステムに依存しないフォーマット形式や再生ドライブの普及度を考慮して、調査職員と協議うえ、BD-R も可とする。
- (4) BD-R にデータを記録する (パソコンを使って記録する) 際のファイルシステムの論理フォーマットは、UDF2.6 とする。

3 成果品は、原則 1 枚の電子媒体に格納する。

(成果品の表記規則)

第7条 電子媒体には、以下の項目を明記すること。

- (1) 業務番号
- (2) 業務名称
- (3) 作成年月
- (4) 発注者名称
- (5) 受注者名称
- (6) 何枚目／総枚数
- (7) ウイルスチェックに関する情報
- (8) フォーマット形式
- (9) 発注者署名欄
- (10) 受注者署名欄

(その他)

第8条 電子化が難しいパース図類や特殊アプリケーションを利用したデータファイルの取扱いは、事前に調査職員と協議する。

2 上記になき事項については、調査職員と協議のうえで決定すること。

別図Ⅰ フォルダ構成

